

# 琉球大学学術リポジトリ

## 側方面頭部X線規格写真による琉球弧と本土日本の女性頭蓋顔面計測比較

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): cephalometry, facial morphology, Ryukyuan 作成者: 山内, 忠, Yamauchi, Tadashi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/33645">http://hdl.handle.net/20.500.12000/33645</a>

(別紙様式第7号)

## 論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	山内 忠
論文審査委員	審査日	平成 28年 2月 8日	
	主査教授	宮崎 哲次	印
	副査教授	石内 勝吾	印
	副査教授	前田 士郎	印
(論文題目)			
A comparative study of craniofacial measurements between Ryukyuan and mainland Japanese females using lateral cephalometric images (側方面頭部X線規格写真による琉球弧と本土日本の女性頭蓋顔面計測比較)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究内容、研究成果の意義および学術水準について慎重に検討した。			
1.研究背景と目的			
琉球人の顔面形態の特徴として、顔面が低い、眉間が突出している、鼻骨の彎曲が強いこと等が報告されている。今回、骨格と軟組織形態が同時に計測可能な頭部 X 線規格写真を用いて、琉球人および本土日本人女性の顔面形態を、より詳細に比較、検討することを目的としている。			
2.研究内容			
多数の頭部X線規格写真から正常咬合を有する琉球と本土日本出身成人女性を選択し、形質人類学並びに歯科矯正学で使用する距離と角度(合計 102 項目)を計測後、分析を行った。Student's t-test を行い、多重比較のため Benjamini-Hochberg 法で補正した結果、有意な差が 14 項目にみられた。大部分の距離計測項目は本土日本人より琉球人の方が小さい値を示し、鼻部で顕著であった。琉球人女性は下顎切痕が浅い、上唇が薄い、オトガイ角が有意に大きいなどの特徴が見られた。主成分分析の結果、琉球人女性は PC1 (大きさと正の相関) および PC5 (顔面下部に対する上部の後退と正の相関) が有意に小さく、PC3 (下顎体の前方傾斜と正の相関) は大きかった。つまり、中顔面部が小さい、オトガイ部の下顎体が前に傾斜する、上顔面が突出することが琉球人女性の特徴であり、これらは互いに独立した形質特徴であることが示された。また、ステップワイズ法を用いた判別分析では 6 つの変数(point A to subnasale, length of nasal bones, orbitale – nasospinale height, condyle – coronoid length, profile angle of nasal bones, symphyseal angle) が残り、これらの変数を使った交差検定の確率は 90.0-96.7%と高かった。結論として、琉球人女性は本土日本人女性と比較して、先行研究と同様、上中顔面高が低い、下顔面高はほとんど違いが無いことを確認した。さらに、1)下顎切痕が浅い、2)オトガイ部が前方傾斜する、3)上唇が薄いなどの特徴を新たに見出した論文である。			
3.研究成果と意義と学術水準			
本研究において確認された琉球人特有の顔面特徴は、ヒト集団間で形態的分化のプロセスを理解する鍵となるのみならず、琉球人における歯科矯正治療の基礎的知見として役立つ。			
以上より、本論文は博士(医学)の学位授与にふさわしいと判断した。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。  
2 要旨は800字~1200字以内にまとめること。  
3 \*印は記入しないこと。